

Department of Nursing

2023年度

看護リハビリテーション学部

看護学科

そっとずっと、寄り添う看護



甲南女子大学

Greeting

ごあいさつ



看護学科長
合田加代子

甲南女子学園は2020年に創立100周年を迎えました。本学の教育理念は、品格と国際性を備え、社会に貢献する高い志を持つ女性を育成することです。看護学科においてもこの理念のもと、豊かな人間性と高い倫理観を持ち、生命の尊厳を基盤に、対象者とその家族・コミュニティを中心にした看護が実践でき、地域・国際社会で活躍できる看護専門職者（看護師・保健師・助産師・養護教諭）の育成を目指しています。

看護は、専門的知識技術を備え、人々に寄り添い、生涯にわたる健やかな成長を、また、病いに苦しむ人の苦痛を和らげ回復を支援し、そして、疾病や障害があってもその人の持てる力を引き出し、その人らしく生き抜くことを支えることです。そのため、看護学科では、学生と教員が共に考えながら、科学的思考力、問題解決力、看護実践力を培うために、シミュレーション教育をカリキュラムに取り入れるとともに、最新のシミュレーターを導入するなどの教育環境を整えています。また、地域包括ケア時代の今“地域で多職種と協働する能力”が求められていることから多職種連携教育（Interprofessional education：IPE）を取り入れ、理学療法学科、医療栄養学科、神戸薬科大学の学生と共に学ぶプログラムを準備しています。

そして、生命の尊さや他者を思う優しさを根底に、“そっとずっと寄り添う看護”を大事にしています。教員も学生の皆さんに寄り添い、学修や学生生活、国家試験、就職などを支援し、充実した学生生活が送れるよう丁寧にかかわっていきます。

国際都市神戸にある甲南の丘のキャンパスで、あなたが目指す看護職になっていけるよう、共に学び合えることを楽しみにしています。

合田加代子

在学生からのメッセージ



看護学科3年生
津田 遥

私が甲南女子大学で看護を学んで良かったと思うことは主に2つあります。

一つ目は看護の技術だけでなく、看護の考え方を学べるところです。甲南女子大学の看護学科では、「良い看護とは何か」、「患者さんに看護をする上で大切な考え方は何か」というようなことをしっかり学習します。看護師としての技術の上達だけでなく、患者さんとの関わり方、より良い看護を提供するためにはどのような考え方が大切なのかをしっかりと学べ、看護師になるための心構えを自分の中で作ることができます。

二つ目は、先輩たちとのつながりが濃いということです。看護学科には学科独自のカンカロという団体があります。カンカロとは「カンカロ=看護を（カン）語ろう（カロ）」という意図で先輩方が創られた団体で、授業で疑問に感じたことや実習、課題、試験などの悩みを先輩に相談できたりもします。特に1年生の間は分からないことだらけで不安がたくさんあります。そんなときに先輩からのアドバイスを聞くことができると心の余裕にもつながります。

学年を問わず助け合いながら、楽しく一緒に勉強してみませんか。

甲南女子大学で学ぶ多職種連携教育 （IPE：Interprofessional Education）

学科・学部・大学を超えて
多職種連携実践（IPW：Interprofessional Work）の能力を養う

多職種連携実践科目

看護学科の新カリキュラムでは、多職種連携教育として、「お互いに、お互いから、お互いについて学び合う」ことを通して実践的な能力が身につけられるように、低学年から段階的に多職種連携実践科目を配置しています。

（ ）内に学科名の記載がない科目は、看護学科・理学療法学科（看護リハビリテーション学部）、医療栄養学科（医療栄養学部）の3学科共同開催科目です。

*1「チームケア論」は本学3学科に加えて、神戸薬科大学との共同開催科目です。

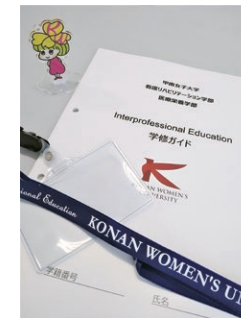
1・2年次

自己ならびに他専門職の役割と責任を理解できる力

「リハビリテーション概論」「理学・作業療法論（看護学科）」
「作業療法概論（理学療法学科）」「看護学概説（理学療法学科）」
「栄養学総論（看護学科，理学療法学科）」
「臨床医学概論（医療栄養学科）」

患者・家族・利用者および他専門職とのコミュニケーション力

「医療コミュニケーション論（看護学科，理学療法学科）」



4年次

効果的なチームケアを実践できる力

「チームケア論」*1

3年次

患者・家族・利用者および他専門職におけるお互いの価値観を尊重する力

「医療倫理」

多職種が連携する価値を見出す力

「医療リスクマネジメント（論）」

患者・家族・利用者および他専門職とのコミュニケーション力

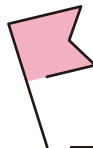
「多職種コミュニケーション論（医療栄養学科）」

参加学生からの声

「自分の専門以外の知識を持つ専門職（学生）とディスカッションすることで、患者様を多面的に捉えた最善のケアを考えられると感じました。」

「職種の人数に関わらず、平等に意見を共有できる環境であった事が良かったです。」

「自分が学んできたことよりも、深いレベルでの知識と、他職種から看護師に求められている情報が何なのかということなどを知ることができ、看護師としての視点の幅が広がりました。」



シミュレーション教育の充実

看護学科では、教育実践におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）化を推進するため、看護教育の「リアル（フィジカル）」と「オンライン（サイバー）」の融合を図り、ICT（情報通信技術）を積極的に講義・演習に取り入れ、学生の学びの充実とさらなる発展を目指しています。近年の社会環境の変化は、看護教育の場にもさまざまな影響を及ぼしていますが、そのことをチャンスと捉え、今だからできる改革を学科全体で進めています。

具体的には、ICTの強みを、今まで培ってきた看護教育に効果的に取り入れることで、十分な感染対策を講じながら複数の実習室を繋いでの技術演習の実施が可能となりました。また、科目の特性に応じてオンデマンド授業を取り入れることで、学生の自律した学びを支えることができています。今後は、看護専門職者として必須となる情報の正しい収集・活用方法の学習や、精緻なシミュレーターを用いた技術教育の刷新などを新たな課題として、教員一同、取り組んでいきたいと考えています。

保健師課程

保健師を目指す4年生が実習前に履修する「公衆衛生看護学方法論Ⅱ」。実習で行う場面を想定して演習に取り組みます。



4か月児健診の会場で、保健師役（学生）が母親（教員）と4ヶ月児に対して問診を行う場面です。写真は児の成長発達状況を確認している場面です。



3ヶ月児のいる家庭の中で、体重が発育曲線に届かず気にしている母親（学生役）に対し保健師（学生）が継続訪問を行う場面です。写真は体重測定を行っている場面です。

Simulation Education

看護師課程

看護師課程で集大成となる「統合実習」。コロナ禍で医療機関での実習が困難な場合は、学内でも医療現場に近い状況を設定し、実際の看護の提供を行います。



学内実習ではトレーニングされた「模擬患者様」の協力を得て、実際に看護援助を提供します。教員の指導の下、安全を確保しながら援助を実施、ケア方法を一緒に計画した他の学生も見学します。



看護を提供したあとに、援助の方法や声掛け、観察内容やその判断を学生と教員が共に検討し、良かったことや改善など多くの発見があります。

最新シミュレーター

リアルなシミュレーターによる実習で実践力を養います。



助産師課程

助産師を目指す技術演習が本格化する4年生。「助産診断技術学」で分娩に関する技術を学ばーコマです。



教員の指導のもと出産の介助技術を何度も練習（ブルーのガウンの学生）。模型の演習でも真剣です。



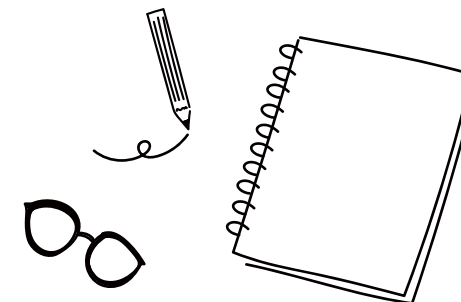
出産直後のお母さんとのふれあい。“よく頑張りましたね”とお母さんをねぎらう言葉かけも大切なケアです。

養護教諭課程

3年生前期に養護教諭専門科目の「養護学概説」「健康相談活動論」が開講されます。実習室を保健室に見立てて、複数の生徒が保健室に来室した時に優先順位をつけて対応する場面の演習をしています。



写真中央奥の畳に横になった生徒役がいます。右側に養護教諭役の2名の学生が座っています。机で記録している学生たちは、演習の観察記録をしているところです。



アドバイザー制度

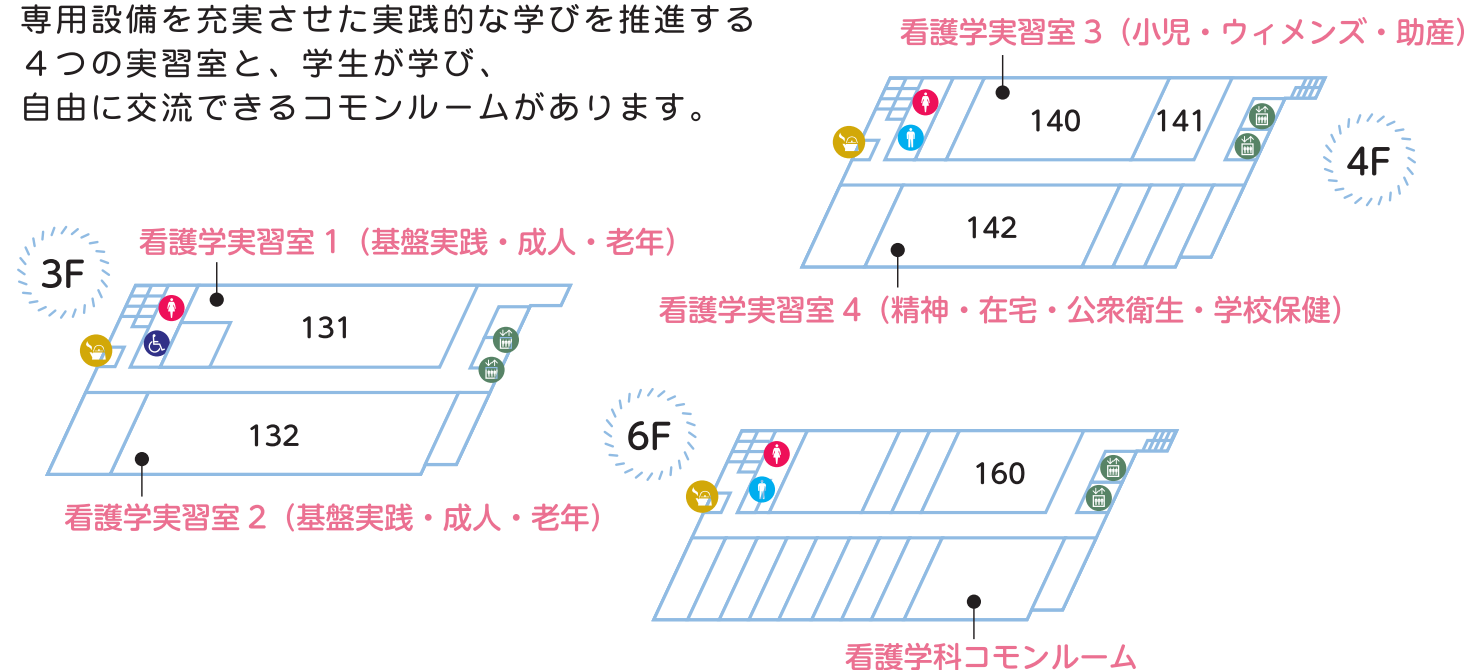
教員アドバイザー制度と学生同士のつながりが
様々なサポートになっています。

本学科では、学生が心身ともに健康に過ごしながら大学生活を送れるように教員が個々の学生の相談窓口となり日々の学習や学生生活、進路の個別サポートを行っています。同じアドバイザーグループの学生同士の交流の場もあり、学生は入学時から学年を超えたつながりの中で、目指している資格取得の学修や実習中の生活の工夫など、先輩後輩の間で沢山の情報交換を行っています。後輩は先輩たちの学習に取り組む姿を見て沢山の励みをもらっています。

先輩後輩のつながりは甲南女子の伝統！アドバイザー制度を越えて卒業後も続きます。卒業生が実習指導者となり、また就職説明会では在学生からの質問に個別に応じてくれたり、国家試験対策やキャリアアップを授業で講義するなど、在学生の成長を支える力になっています。

看護学科のフロアマップ

1号館には最新のシミュレーターを導入するなど
専用設備を充実させた実践的な学びを推進する
4つの実習室と、学生が学び、
自由に交流できるコモンルームがあります。



大学院看護学専攻（博士前期課程・博士後期課程）

大学院では看護についてさらに深く探究していきます。看護の実践と教育、研究に関する理論や方法を学び、研究の成果を社会に役立てることができるような研究を行うことをめざします。修了後には、看護の実践現場ではリーダーシップを発揮し、教育の現場では後輩を育成することで、看護の質の向上に寄与します。看護師の生涯のキャリアアップを図ることができます。



大学院看護学
研究科 HP



卒業生からのメッセージ



看護師

関西電力病院 半田有希

私は看護師として急性期病院で勤務しておりますが、患者様の疾患や症状だけを見るのではなく、その人らしさを大切にしたい看護を目指して日々奮闘しています。学生時代は講義や演習の中にグループワークが多くあり、自分の考えをメンバー同士で活発に意見交換することがとても楽しく、自分らしい看護を考えるきっかけになったと感じています。また本学は設備も整っており、シミュレーターで呼吸音を聞いたり、ケアの練習を友人と一緒にしたりととても充実した学習環境で楽しく学ぶことができました。本学の先生方は熱心な方ばかりです。優しく温かく、時には厳しくご指導くださり、看護師になるまでだけでなく、看護師として臨床の現場に出てからも困らないようにサポートしていただきました。また、勉強は大変でしたが友人と支え合っていた刺激を与え合いながら頑張ることができ、私にとって甲南女子で出会った友人たちは宝物です。私は本学を選んで本当によかったなと感じています。高校生の皆さん、看護師はとってもやりがいがあり、自分自身の成長にも繋がる素晴らしい職業です。是非、甲南女子大学で看護職になる一歩を踏み出していだけたらと思います。



保健師

神戸市役所 内山理紗

甲南女子大学では看護師以外の資格を取得できること、国際保健に力を入れていることに魅力を感じ入学を決めました。入学後は医療職としてのスキルはもちろん、患者さまの「その人らしさ」を尊重した関わり方を学ぶことができました。



自分だけでなく、相手の立場になって考えるという姿勢は保健師となった今でも大切にしています。先生との距離が近いのも魅力のひとつです。学習面だけでなく就職先に悩んだときも支えていただき、充実した4年間となりました。

現在は幅広い世代、様々なバックグラウンドをもった住民の皆さまの生活に寄り添い、「信頼できる保健師さん」を目指し日々奮闘しています。



養護教諭

伊丹市立いけじり幼稚園 田中百代

私は、高校の時に会った養護教諭の先生の影響で養護教諭を目指すようになりました。また、看護師の経験を有する養護教諭になりたいと思い、甲南女子大学に入学しました。学生時代は目の前の課題を乗り越えることに必死でしたが、同じ志を持った仲間と出会い、大変なことも共に乗り越えることができました。グループワークが多く、自分の思いや考えを他人に伝える機会になり、他人の意見を聞くことで、いろいろな考えがあることを学びました。学内の設備環境は充実していて、看護技術の練習をしっかりとできることで自信を持って実習に行くことができました。実習前のマナー講座や集大成の国家試験対策も充実していました。これらの学生生活を乗り越えられたのは、教員の先生方がアドバイザー制度などを通して支えてくださったことが大きかったと思います。看護学科では先生方を身近に感じることができ、困ったときには相談できる人がいるということが心強かったです。空き時間や昼食時にはコモンルームを活用して、仲間といろいろな話をしたり、校舎からの綺麗な景色や夜景に癒やされながら楽しい時間を過ごしたのも良い思い出です。



助産師

甲南女子大学看護学科教員 清水美樹

助産師として勤務していた時代、産婦さんに経験的によいとされているケアを提供した際に「なぜよいのですか」と尋ねられ、その返答に困った経験があります。その時、漠然と良いとされていた支援や考え方に、それまで「何故良いのか？」という疑問を持っていなかったことに気が付きました。経験値を理論的に説明できるようになりたい、またその必要性を感じて、大学院へ進学することを決めました。



現在、私は病院勤務を経て、母校である甲南女子大学で看護師育成の教育に携わりながら大学院生として学んでいます。とても大変なこともありますが、それ以上に、新たな考え方や学びが得られることは大変刺激的で、毎日とても充実した日々を送っています。また、研究者、教育者として、将来自分が目指す存在が身近にいるといった環境も大変恵まれていると感じています。今後は教育に軸を置きながらも、よりよく女性が輝いて生きる支援の視点をもって、地域でも活躍していける助産師を目指し、大学院での学びを深めていきたいと考えています。

総合型選抜＜専願＞

総合型選抜は、本学の理念及び教育方針に基づき各学科が求める学生像（アドミッション・ポリシー）に照らし、志望学科の学生としての適性を多面的に検討して、可否を判定する入学者選抜制度です。
看護学科では 2023 年度入試から総合型選抜の募集人員を 5 名に増員しています。
詳しくは「学生募集要項 2023」p.9、大学 HP をご確認ください。



看護グローバル型選抜＜専願・併願＞海外研修スカラシップ付き

基礎学力（英語）、文章読解能力及び論理的思考・表現力（小論文）及び調査書の得点を総点として可否判定する選抜制度です。合格者には看護学科海外研修へ優先的に参加することができます。また、海外研修を希望し、入学後所定の選考基準を満たしている場合には、海外研修費用の全額（50 万円を上限とする）を支給します。
詳しくは「学生募集要項 2023」P.17～19、大学 HP をご確認ください。



小論文試験の概要

1 文章読解力

文章理解能力が必要です。
内容は医療、社会、歴史、文学等の看護学の基礎となるような幅広い分野から出題します。

2 論理的思考力

受験生自身の考えを問う問題を出題します。「読解を踏まえた論理展開」ができているかを重視します。
単に感想や自分の意見を述べるのではなく、他者の考えを元に自らの意見を論理的に展開する能力を問います。

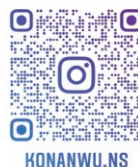
受験対策

社説等について、「疑問を持ちながら読む」ことから始めましょう。
新聞・雑誌等の特集記事から始め、書物等を読み、文章読解することに慣れることが重要です。また読みながら、「自分なりの考えを持つ」ようにしましょう。
一つのテーマについて、複数の著者の書籍を読み比べることも自分の意見をもつ練習になります。読んだ内容を 400 から 800 字程度にまとめる練習をしましょう。読解力をつける練習として、キーワードとなる語句を見つけ、それを解説する文章を書くことも有効です。

OPEN CAMPUS 情報

6 月 5 日（日）10:00～15:00
7 月 16 日（土）・17 日（日）10:00～15:00
8 月 6 日（土）・7 日（日）10:00～15:00
9 月 4 日（日）10:00～15:00
12 月 3 日（土）13:00～17:00
2023 年 3 月 21 日（火・祝）10:00～15:00

※内容は変更になる可能性があります。
最新情報は大学公式 Web サイトを
ご確認ください。



インスタ
発信中



在校生
インタビュー
動画

入試インフォメーション

窓口業務の取り扱い日時

月曜日～金曜日 9 時～17 時

休業日 ● 土曜／日曜／祝日

● 夏期：8 月 6 日（土）から 8 月 17 日（水）まで

● 冬期：12 月 28 日（水）から 1 月 5 日（木）まで

お問い合わせ

〔入試課〕〒658-0001 兵庫県神戸市東灘区森北町 6-2-23
tel.078-431-0499／078-431-7600
fax.078-451-3680
e-mail: nyushi@konan-wu.ac.jp

入試問題集

出題傾向がわかる入試問題集は、7 月上旬発行予定です（送料とも無料）。
ご希望の方はホームページよりご請求ください。



QRコードからアクセス！
甲南女子大学 HP
<https://www.konan-wu.ac.jp/>

最新情報配信中！



甲南女子大学

